

### 3 チッソについて

Q1 メチル水銀を工場から流しているのに気づいていた人はなぜ言わなかったのか。

人の命を奪うのにどうしてとめられなかったのか。

チッソ工場が汚水を流してから、なぜ30年もそのままにしていたか。

なぜチッソは排水を流し続けたのか。

チッソ工場の人々がメチル水銀を流して水俣病になったのを隠していた理由。

どうして、体に悪いことがわかっていても工場は排水を流し続けていたのですか。

A1 会社の利益を優先してその事実を隠していました。チッソ水俣工場は電気化学工場でしたが、化学工業の世界的な流れは石油原料方式への転換でした。同じ製品を製造するにもコスト的に有利だからです。日本の化学工業も石油原料方式転換を進めており、チッソも千葉県に工場を造る計画で多額の資金を必要としていました。一方、水俣工場は、千葉県の工場が稼働すれば縮小することになりますので、稼働できる時に最大の利益を求めたということだと思います。

また、日本の高度成長期の時代で、チッソが作る化学物質は人々の生活に密着しており、国はチッソの操業を停止できなかったという側面もあると思います。

Q2 なぜ水俣病という名前がついたのですか

A2 病気が発生した当時、まだ原因がわからなかったので病名はつけられませんでした。発生した地域では「奇病」とよばれ、「伝染病」として恐れられていました。しかし「奇病」とよぶのは他の病気とはつきり区別が付きにくいなどの理由で1957年ごろから、発生した地域名をとって水俣病と呼ばれるようになったといわれています。1968年に政府が「水俣病」という名前で公害認定を行いました。

Q3 チッソ工場の操業はどんなものだったのか。

A3 最初は川内川で水力発電を行う曾木電気として始まりましたが、1908年から水俣でカーバイト工場や肥料工場として操業を開始し、空気中の窒素からアンモニアを合成するようになって以降、総合化学メーカーとして急成長していきました。その後は、日本の化学メーカーの頂点に上り詰め、技術のチッソといわれるようになりますが、工場内では労災事故が多く発生していたそうです。労働環境を顧みず利益を追求する経営姿勢は、その後の水俣病につながっているように思います。

Q4 水はどこまで流れたのか。

A4 発生当初は、百間排水口から水俣湾から南側に被害が出ていましたが、排水口を水俣川河口に変更したことによって、不知火海全域への汚染が拡大したといわれています。

Q5 チッソは、どうやって排水を処理したのか。

A5 排水処理装置としてサイクレーターという浄化設備をつけたり、八幡プールに沈殿させたりしましたが、メチル水銀の海域への流出防止には効果はなかったといわれています。

Q6 工場排水が原因とわかりつつ流すことに反対する人はいなかったのか。

工場の人たちはだれ一人メチル水銀の排水をやめようとしなかったのか。

A6 当時は、工場の一部の関係者のみが事実を知っていました。チッソは会社の利益を優先してその事実を隠していました。1959年に熊大の研究班が、原因は何らかの有機水銀で工場排水が疑わしいと発表しましたが、チッソからの反論や化学工業会の御用学者から異論が出されるなど、残念ながら工場排水が原因と知っている人たちの中から、工場排水を止めようという意見は出されませんでした。

Q7 どうして海に流してしまったのか。

A7 当時は、アセトアルデヒドを製造するときに使っていた無機水銀が有機水銀やメチル水銀に化学変化していることを把握していなかったと考えられますが、詳細は分かっていません。海に流せば、濃度が薄まって汚染の影響も少なくなるという考えもあったと聞いています。

Q8 チツソ工場は今どうなっているのか。

チツソ工場は他にもあるのですか。今は何をつくっていますか

チツソ工場のことをもっと詳しく知りたい。

チツソの工場排水は今どうしているのですか。

A8 チツソ水俣工場は、現在も操業しています。チツソは本社を東京におき、水俣工場のほか、千葉県市原市、滋賀県守山市、三重県四日市市、福岡県北九州市などに工場があります。また、韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、アメリカなど海外にも事業所があります。今は家電製品などに使われる液晶の材料や食品の保存料、化学肥料などいろいろな化学製品を製造しています。工場排水は、水質汚濁防止法により厳しく監視され、工場から危険な排水は行われていません。

Q9 チツソ工場ではどれくらいの人が働いているのか

A9 水俣病が発生した当時は、水俣の人口の半分ぐらいをチツソに関係する人たちが占めていたといわれていますが、現在は、工場に出入りする関連企業を含めても500人程度ではないかといわれています。

Q10 チツソ工場の現在の取り組みはどんな取り組みをしているのか

A10 化学製品の開発から製造・使用・破棄に至るまでの全ての過程において、自主的に環境・安全・健康を確保し、社会からの信頼性向上とコミュニケーションを行う活動を行っています。国際規格のISO14001(環境管理システム)も取得しています。主な製品としては液晶の材料などがあります。また、竹を使ったバイオエタノールの研究や、みかんの皮から抽出したオイルからボディ・ケア商品を開発するなど、地域とともに歩む企業として、地元の資源を活用した環境・エネルギー分野の研究問題にも取り組んでいます。

Q11 チツソに謝ってもらえたのでしょうか。

患者はチツソ謝罪を受け入れたのでしょうか。

A11 水俣病が公害病の認定を受け、江頭社長(当時)は、1968年に患者家族に謝罪をしました。その後も水俣病犠牲者慰霊式などで謝罪しています。しかし、水俣病の患者たちは、チツソからほんとうに謝ってもらったという印象は受けていないようです。

Q12 アセトアルデヒドとは何か

A12 無色で特有の臭気があり、常温で高揮発性の液体です。有機化学工業の原料、合成樹脂、合成ゴムなど化学製品の合成原料として用いられる中間原料です。水俣病が発生した当時は、塩化ビニールやプラスチックの材料となるオクタノールを造るための原料として大量に製造されていました。

Q13 工場の人たちはいつから工場排水が原因とわかっていたのか。

A13 チツソ工場の付属病院の細川院長は、1957年に工場の廃液を与えた猫が病気になることを確認し、工場の幹部に報告していましたので、その時には工場の一部の人たちは工場排水が原因と知っていたと思います。